

## 2018 年度事業報告

(2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

日本気象学会は2013年4月1日に公益社団法人に移行し、定款第3条のとおり「気象学、大気科学等の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内及び国外の関係学協会等と協力して、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展に寄与すること」を目的として、2017年度も定款第4条で定める以下の事業を推進した。

- ・ 気象学、大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催
- ・ 機関誌その他気象学、大気科学等に関する図書等の刊行
- ・ 研究の奨励、援助及び研究業績の表彰
- ・ その他この目的を達成するために必要な事業

### I 気象学・大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催事業の実施（公益目的事業1）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、大会における講演発表、公開気象講演会、各支部における研究報告会並びに普及活動等を通じて社会に公表し、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展を図った。

#### 1. 研究会等の開催

##### (1) 全国大会

春季並びに秋季に開催している全国大会は、会員等が研究及び調査の成果を発表する研究集会であり、2018年度は、春季は東京を秋季は仙台を開催地として、以下のとおり開催した。各大会は講演企画委員会と担当機関内に設置された実行委員会が協力して、企画運営を行っている。

##### ① 2018 年度春季大会

期 日：2018 年 5 月 16～19 日

場 所：つくば国際会議場

担 当：気象研究所

参加者：695 名

講演数：専門分科会 14 件、口頭発表 179 件、ポスター発表 101 件、合計 294 件

シンポジウム：「防災・減災のための観測・短時間予測技術の未来」（5 月 18 日）

##### ② 2018 年度秋季大会

期 日：2018 年 10 月 29 日～11 月 1 日

場 所：仙台国際センター

担 当：仙台管区気象台、東北大学

参加者：796 名

講演数：専門分科会 107 件、口頭発表 185 件、ポスター発表 216 件、合計 508 件

シンポジウム：「未来を拓く気象観測のあり方」（10 月 30 日）

##### (2) 調査研究会

我が国に発生した気象災害に関する調査研究会として、「平成30年7月豪雨」をテーマに気象災害委員会がメソ気象研究連絡会と共催で、仙台市で開催した（2018年10月28日）。

##### (3) 研究連絡会

研究連絡会は会員の自主的な発議に基づき、理事会の承認を得て設置されており、若干の世話人を中心に運営されている。現在合計 14 の研究連絡会が設置されており、以下の 12 研究連絡会が合計 14 回の研究会を、主に春季・秋季大会の期間中に開催した。

研究連絡会	期日	場所	テーマ
メソ気象	2018 年 5 月 15 日	東京	雷研究の現状と今後の展望
気象学史	2018 年 5 月 16 日	東京	日本でも初期の数値天気予報
熱帯気象	2018 年 9 月 25～26 日	名古屋	第 10 回熱帯気象研究会
台風	2018 年 10 月 26～27 日	名古屋	台風セミナー2018
メソ気象	2018 年 10 月 28 日	仙台	平成 30 年 7 月豪雨（気象災害委員会と共催）

オゾン	2018年10月29日	仙台	オゾンに関する観測的研究の将来展望
極域・寒冷域	2018年10月29日	仙台	北極海の海氷減少の中緯度気候への影響は本当か？
統合的陸域圏	2018年10月29日	仙台	気候変動に伴う陸面水循環の変化、及びそれが人間活動へ与える影響
気象学史	2018年10月31日	仙台	わが国における大気放射学の草創と東北大学
観測システム・予測可能性	2018年11月21～22日	京都	季節予測システムの進展と異常気象の要因分析
長期予報	2018年12月12日	東京	2018年夏の異常な天候と大気循環
非静力学数値モデル	2018年11月14～16日	東京	第5回非静力学モデルに関する国際ワークショップ (気象庁と共催)
航空気象	2019年2月8日	東京	第13回航空気象研究会
天気予報	2019年2月23日	東京	第16回天気予報研究会

(4) 気象研究コンソーシアム

気象研究コンソーシアムは、日本気象学会と気象庁とで締結された包括的な共同研究契約「気象庁データを利用した気象に関する研究」に基づく枠組みである。2018年度におけるこの枠組みを利用した研究課題数は、継続課題51件、新規課題6件の合計57件である。

(5) 他学会との共催等

他学会と共催で、気象学・大気科学に関する研究会やシンポジウム等を実施し、研究成果の公開に努めると共に、関連分野の研究者との情報交換・情報共有に努めた。2018年度は以下の会合等を開催した。

① 原子力総合シンポジウム2018

主催：日本学術会議 総合工学委員会（2018年10月22日：日本学術会議講堂）

② 第55回アイソトープ・放射線研究発表会

主催：日本アイソトープ協会（2018年7月4～6日：東京大学弥生講堂）

気象学会から委員を選出し運営に参画している。

③ 第35回エアロゾル科学・技術研究討論会

主催：日本エアロゾル学会（2018年7月31～8月2日：名古屋大学東山キャンパス）

④ 第25回風工学シンポジウム

主催：日本風工学学会（2018年12月3～5日：東京工業大学 大岡山キャンパス）

気象学会から委員を選出し運営に参画している。

⑤ 第32回数値流体力学シンポジウム

主催：日本流体力学学会（2018年12月11～13日：機械振興会館）

⑥ 第4回理論応用力学シンポジウム

主催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同力学基盤工学分科会

（2019年1月23日：日本学術会議講堂）

(6) 支部研究会活動

各支部において年1～4回、地域特有の現象等に関する気象学・大気科学の研究成果の発表会を行い、成果の公開に努めると共に、研究者間での情報交換・情報共有に努めた。2018年度は以下のとおり実施した。

① 北海道支部 ア 第1回研究発表会 2018年7月17日（札幌市）（参加者約20名）

イ 第2回研究発表会 2018年12月18日（札幌市）（参加者約40名）

② 東北支部 支部研究会 仙台市で秋季大会を開催したため、2018年度に限り休止した。

③ 中部支部 支部研究会 2018年11月29～30日（津市）（参加者約65名）

④ 関西支部 ア 第1回支部例会 2018年12月7～8日（高知市）（参加者約35名）

イ 第2回支部例会 2018年12月15日（岡山市）（参加者約25名）

ウ 第3回支部例会 2018年12月21～22日（大阪市）（参加者約35名）

⑤ 九州支部 支部発表会 2019年3月3日（長崎市）（参加者約40名）

⑥ 沖縄支部 支部研究会 2019年2月28日（琉球大学）（参加者約40名）

(7) その他

① 日本気象学会夏期特別セミナー（若手会 気象夏の学校）開催への援助

本セミナーは、若手研究者の研究発表の実施並びに最先端の研究を行う気象研究者による講演を行うことにより、若手研究者相互の交流や研究意識を高めることを目的としており、日本気象学会が援助を行っている。

る。2018年度は、以下のとおり行われた。

- ・日付：2018年8月31～9月2日
- ・場所：愛知県民の森（愛知県新城市）
- ・内容等：招待講演（講師3名の方々による講演）、一般講演（参加者全員が口頭発表）
- ・参加者：84名

## 2. 一般向け普及・啓発活動

### (1) 公開気象講演会

公開気象講演会は、教育と普及委員会が中心となって、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果を分かりやすく解説することを目的として、春季大会開催時に開催している。2018年度は以下のとおり実施した。

- ・日付：2018年5月19日
- ・場所：つくば国際会議場
- ・テーマ：台風の強度～台風災害の軽減に向けた航空機観測～

### (2) 第52回夏季大学

夏季大学は、最新の気象学の知識の普及を目的に、小中高校の教職員や、気象の愛好家を対象とした、やや専門性の高い講座で、教育と普及委員会が中心となって毎年度開催している。2018年度は以下のとおり実施した。

また、同様の活動は以下の（5）で示すように、各支部においても実施している。

- ・日付：2018年8月4日（土）～5日（日）
- ・場所：気象庁講堂
- ・テーマ：浸水・洪水予測と気象防災の最前線

### (3) 気象サイエンスカフェ

気象サイエンスカフェは、日本気象学会と日本気象予報士会が共催する「気象の専門家や有識者」と「その話を聴いたり話したりしてみたい方」との科学コミュニケーションの場として、2006年春に東京でスタートした。現在は各支部を中心に全国各地で開催している。2018年度の開催状況は以下のとおりである。また、同様の活動は（7）で示すように、各支部においても実施している。

- ①日付：2018年9月8日，場所：東京都（日本気象協会会議室）、テーマ：源氏物語と気象
- ②日付：2018年10月16日，場所：つくば（BiViつくば）、テーマ：低気圧の多様性～熱帯から極まで～
- ③日付：2018年11月29日，場所：東京都（東京理科大学理窓会第2会議室）、テーマ：気象現象と経済活動のカオス性～不確実を認識して、気象と株価の未来を予測する方法～

### (4) ジュニアセッションの開催

ジュニアセッションは、気象学に興味を持つ主に高校生・高専生（中学生も可）を対象に、生徒達が気象学会の大会会場において、専門家の前で発表体験をすることにより、生徒達の気象学に対する興味や探究心が高まり、学会としての社会貢献にとどまらず、将来の気象学の発展とより豊かな社会の招来に繋がることを期待して開催している。2018年度は、以下のとおり、第4回を実施した。なお、本事業は小倉義光・正子基金から、ジュニアセッションで発表する生徒らの旅費等を補助した。

- ・日付：2018年5月19日
- ・場所：つくば国際会議場
- ・参加校数、発表件数：11校、16件

### (5) 先生のための気象教育セミナー

気象に関する教育支援を目的とした毎年開催している「気象教育懇談会」を「先生のための気象教育セミナー」に名称を変更し開催した。2018年度は、雪の結晶作成実験等の身近なものでできる気象実験と、元気象庁予報官や現役気象キャスターの話して、生徒の興味を引き出す話題とした。なお、本事業は小倉義光・正子基金から資金補助を受けて実施した。

- ・日付：2019年1月6日
- ・場所：田園調布学園
- ・参加者：中学校・高等学校教員名

### (6) 「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」に出展

教育と普及委員会と人材育成・男女共同参画委員会が協力して、独立行政法人国立女性教育会館が女子中高生を対象に開催した「女子中高生夏の学校」においてポスター展示とキャリア相談のブースを設置した。このイベントは女子中高生が「科学技術にふれ」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学技

術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として、平成17年度より毎年開催されている。

- ・日付：2018年8月9日～11日
- ・場所：国立女性教育会館（NVEC）

(7) 支部普及活動

各支部において、それぞれの地域の実情に応じて、「気象講演会」、「サイエンスカフェ」、「ジュニアセッション」、「子ども気象学教室」、「離島お天気教室」等、一般市民並びに子供を対象に普及活動に努めている。2017年度は以下の活動を実施した。

支部	活動	日付	場所	内容	参加者
北海道	気象講演会	2018年10月13日	稚内市	地球温暖化による影響から暮らしを守る	約30名
東北	気象講演会	2018年11月5日	山形市	雪と生きるー山形の大雪、いまとこれからー	約80名
	サイエンスカフェ	2018年7月15日	仙台市	地球温暖化あれこれ	約10名
中部	公開気象講座	2018年8月24日	名古屋市	集中豪雨 知る・診る・備える	約145名
	サイエンスカフェ	2018年10月13日	長野市	Kasayanと一緒に天気図解析をしてみましょう！	約10名
	サイエンスカフェ	2018年11月11日	名古屋市	複雑な動きをする台風のしくみ	約45名
	サイエンスカフェ	2019年2月17日	名古屋市	地球温暖化と集中豪雨	約45名
関西	夏季大学	2018年8月18日	京都市	ー惑星気象学の新展開	約80名
	講演会	2018年12月7日	高知市	局地気象研究のすすめー「肱川あらし」と「北岩手波状雲」の事例を中心にー	約35名
	講演会	2018年12月15日	岡山市	渦相関観測と生物地球化学的観測を用いた諏訪湖におけるメタン動態の解明	約25名
	講演会	2018年12月21日	大阪市	古文書からわかる昔の大地震	約35名
	サイエンスカフェ	2019年2月2日	大阪市	平成最後の台風シーズンを振り返って	約20名
九州	気象教室	2019年1月20日	福岡市	南極越冬隊員が語る 南極から診た地球の環境	約100名
	サイエンスカフェ	2018年11月10日	鹿児島市	あの出来事のお天気のヒミツ	約20名
	サイエンスカフェ	2018年12月22日	福岡市	2018年夏の「危険な暑さ」その真相に迫る	約30名
	ジュニアセッション	2019年3月3日 支部発表会のセッションとして実施	長崎市	参加校数：3、発表件数：3	生徒15名他3名
沖縄	子ども気象学教室	2018年8月1～3日	那覇市	日本気象予報士会沖縄支部、沖縄気象台、(株)FMとよみと共催	約25名
	離島お天気教室	2018年6月6日	西表島	石垣島地方気象台と共催	約85名
	離島お天気教室	2018年9月12日	波照間島	石垣島地方気象台と共催	約45名
	離島お天気教室	2018年11月9日	北大東村	南大東島地方気象台と共催	約60名
	防災気象講演会	2018年6月5日	西表島	石垣島地方気象台と共催	約25名
	防災気象講演会	2018年9月11日	波照間島	石垣島地方気象台と共催	約25名
	防災・気候講演会	2019年1月12日	那覇市	沖縄気象台、沖縄県等と共催	約160名
	サイエンスカフェ	2018年12月15日	那覇市	航空機による台風観測でみえたもの	約40名

(8) その他

①気象予報士CPD制度の支援

2016年度に引き続き、気象予報士の気象技能の継続的な研鑽を目的としたCPD（Continuing Professional Development）制度を支援している。適切なCPDポイントを設定するためのCPD認定委員会

に、気象学会から3名の委員が選任されている。

## ②教育活動の拡充(関西支部)

- ・夏季大学に合わせて、大学で気象学を学びたい高校生や気象の知識を活かした就職を希望する方を対象にした「気象関係合同進路説明会」を実施(参加総数は5名)。
- ・夏季大学に高校生の参加費を無料にする促進策を実施(2名の応募があり、全員参加)。

## II 機関誌その他気象学・大気科学等に関する図書等の刊行事業の実施(公益目的事業2)

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、刊行物によって社会に公表することを通じて、学術及び科学技術の振興と発展を図っている。2018年度は、以下の1~5の5種類の図書の刊行を行った。

### 1. 機関誌「天気」の刊行

「天気」は、和文の査読つき論文、気象学・大気科学に関する解説、学術集会の報告、その他日本気象学会や関連学会等の情報などを掲載した月刊の機関誌である。編集作業等は、全国の会員40名余りで構成された天気編集委員会が担当している。

2018年度は「第65巻4号~第66巻3号 計886ページ」を刊行した。また、冊子体の発行からおおよそ1ヵ月後に、電子ジャーナル版を公開している。

### 2. 英文論文誌「気象集誌」の刊行

「気象集誌(Journal of the Meteorological Society of Japan)」は、英文の査読つきオリジナル論文及びレビュー論文のみを掲載する隔月刊の論文誌である。編集作業等は、海外の研究者を含む30名余りで構成された気象集誌編集委員会が担当している。

2018年度は「第96巻2号~第97巻1号及び特別号96-A、96-B 計1457ページ、論文78編(特集号論文4編を含む)」を刊行した。また、2016年の投稿論文から冊子体刊行に先んじて電子ジャーナル版を公開している。

一方、日本学術振興会から(科学研究費補助金:研究成果公開促進費)を受け、2018年度から5ヵ年計画で「国際情報発信強化の取組」を進めている。取組の目的はJMSJ/SOLAのさらなる国際情報発信を強化し、両誌の質の向上を図り、気象学分野を国際的にリードする専門紙としての地位を確立することにある。このため、2018年度は、気象集誌とSOLAとの連携を強化し、広報体制の拡充によるvisibilityの向上、査読、出版プロセスの迅速化等を図った。

### 3. 英文レター誌「SOLA」の刊行

「SOLA」は、速報性を重視したWeb上(電子版)のみで公開する英文の査読つきレター誌である。速報性を重視しているため、1編の英単語数の上限を3100語(約4ページ相当)としている。編集作業等は、海外の研究者を含む40名余りで構成されたSOLA編集委員会が担当している。

2018年度は「第14巻、第15巻及び特別号15A、計232ページ 論文42編」を刊行した。

一方、日本学術振興会から(科学研究費補助金:研究成果公開促進費)を受け、2018年度から5ヵ年計画で「国際情報発信強化の取組」を進めている。取組の目的はJMSJ/SOLAのさらなる国際情報発信を強化し、両誌の質の向上を図り、気象学分野を国際的にリードする専門紙としての地位を確立することにある。このため、2018年度は、気象集誌とSOLAとの連携を強化し、広報体制の拡充によるvisibilityの向上、査読、出版プロセスの迅速化等を図った。

### 4. 「気象研究ノート」の刊行

「気象研究ノート」は気象学・大気科学の最新の知見や技術について、テーマごとに詳細に解説を掲載した不定期刊行の学術誌である。編集作業等は、委員12名で構成された気象研究ノート編集委員会が担当している。

2018年度は、236号「都市における極端気象の観測・予測・情報伝達」、237号「気象レーダー60年の歩みと将来展望」、238号「静止気象衛星ひまわり8号・9号とその利用」を刊行した。

### 5. 「大会講演予稿集」の刊行

「大会講演予稿集」は、春季・秋季大会の発表論文の予稿(要約を1ページに掲載)を全て掲載した刊行物である。掲載講演数は大会ごとに300~500件になる。編集作業等は、大会の講演全般を管理する講演企画委員会が担当している。

2018年度は「113号（春季大会）：専門分科会14件、口頭発表179件、ポスター発表101件、合計294件」、  
「114号（秋季大会）：専門分科会107件、口頭発表185件、ポスター発表216件、合計508件」を刊行した。

### Ⅲ 研究の奨励、援助および研究業績の表彰事業の実施（公益目的事業3）

学術及び科学技術の振興及び発展を図ることを目的に、気象学・大気科学に関する個人またはグループの優秀な研究・教育・普及活動等の業績を顕彰している。

また、若手研究者を対象に、国外での学術研究集会への参加に際しての旅費等の援助を行うとともに、我が国で開催する学術研究集会への国外からの参加を促すために、旅費等の支援を実施している。これらの活動を行うことにより、国際学術交流を推進している。

#### 1. 研究業績の表彰

##### (1) 日本気象学会の表彰

2014年度からは、新たに岸保賞を設けると共に、従来の山本・正野論文賞の主旨を継承発展させた正野賞と山本賞の2つの賞を新たに設けた。また、2018年度からは、優れた発表をした学生を顕彰する松野賞を設けた。これにより、日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞、堀内賞、正野賞、山本賞、奨励賞、松野賞の8つの賞となり、気象学・大気科学の多様な分野と学生を含む多様な世代の優れた研究者を幅広く顕彰することが可能となり、奨励事業の拡充を図ることができた。

それぞれの賞に対する候補者推薦委員会より推薦された候補者について、理事全員の投票により受賞者を決定している。

この他、気象集誌論文賞並びに SOLA 論文賞は、それぞれの編集委員会が決定している。2018年度は以下の通り顕彰を実施した。

賞	受賞者	業績又は対象論文
日本気象学会賞	重 尚一（京都大学）	衛星観測に基づく潜熱及び降水量推定手法に開発とアジアモンスーン域での地形性降雨特性の解明
藤原賞	内野 修（国立環境研究所）	ライダーの技術開発と大気微量成分の観測的研究への応用及び発展に尽した功績
	佐藤 薫（東京大学）	南極昭和基地レーダーPANSY計画の立案・推進と中層大気力学の発展に尽した功績
岸保・立平賞	太田琢磨（気象庁）、牧原康隆（気象業務支援センター）	浸水害及び洪水害の軽減に向けた技術開発と危険度分布情報の社会への提供に関わる功績
堀内賞	鶴田治雄（リモート・センシング技術センター）	大気化学的知見を用いた大気環境保全技術の開発への貢献
	芳村 圭（東京大学）	観測とモデルによる同位体水文気象学に関する研究
正野賞	近本喜光（ユタ州立大学）	10年規模気候変動の予測技術開発と地球環境システム変動の予測可能性に関する研究
	中山智喜（長崎大学）	ブラックおよびブラウンカーボン粒子の光学特性の実験および観測研究
山本賞	神山 翼（東京大学）	温暖化強制に対する熱帯太平洋の海面水温応答に関する研究
	林末知也（ハワイ大学）	西風イベントとエルニーニョ・南方振動の相互作用に関する研究
	本田 匠（理化学研究所）	新世代静止気象衛星観測のデータ同化に関する研究
奨励賞	松岡直基（（株）北海道気象技術センター）	北海道における吹雪・豪雪等の災害気象に関する普及啓発活動
松野賞	山本雄平（京都大学）	日本の大都市域における地表面温度の日変化特性（春季大会）
	吉田敏哉（京都大学）	建物高さのばらつきを考慮した都市キャノピーによる乱流特性への影響（春季大会）
	三浦 悠（岡山理科大学）	肱川あらしの発達に谷筋の水平気圧傾度が及ぼす影響（秋季大会）

気象集誌 論文賞	Jing Xu (中国気象科学アカデミー)、Yuqing Wang (ハワイ大学)	Jing Xu, Yuqing Wang, 2018: Effect of the Initial Vortex Structure on Intensification of a Numerically Simulated Tropical Cyclone. <i>J. Meteorol. Soc. Japan</i> , 96, 111-126, doi:10.2151/jmsj.2018-014
	柄本英伍・新野宏 (東京大学)	Eigo Tochimoto, Hiroshi Niino, 2018: Structure and Environment of Tornado-Spawning Extratropical Cyclones around Japan. <i>J. Meteorol. Soc. Japan</i> , 96, 355-380, doi:10.2151/jmsj.2018-043
	岩井宏徳・石井昌憲・川村誠治 (情報通信研究機構)、佐藤英一・楠 研一 (気象研究所)	Hironori Iwai, Shoken Ishii, Seiji Kawamura, Eiichi Sato, Kenichi Kusunoki, 2018: Case Study on Convection Initiation Associated with an Isolated Convective Storm Developed over Flat Terrain during TOMACS. <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , 96A, 3-23, doi:10.2151/jmsj.2017-014
SOLA 論文賞	伊藤耕介・山田広幸 (琉球大学)、山口宗彦・中澤哲夫 (気象研究所)、長浜則夫・清水健作 ((株)明星電気)、大東忠保 (防災科学研究所)、篠田太郎・坪木和久 (名古屋大学)	Kosuke Ito, Hiroyuki Yamada, Munehiko Yamaguchi, Tetsuo Nakazawa, Norio Nagahama, Kensaku Shimizu, Tadayasu Ohigashi, Taro Shinoda, and Kazuhisa Tsuboki, 2018: Analysis and Forecast Using Dropsonde Data from the Inner-Core Region of Tropical Cyclone Lan (2017) Obtained during the First Aircraft Missions of T-PARCI. <i>SOLA</i> , 14, 105-110, doi: 10.2151/sola.2018-018

## (2) 支部における顕彰

北海道支部では、会員の研究の奨励推進の一環として、支部における活動で業績のあったものや支部研究発表会で優れた講演をおこなったものを顕彰している。2018年度は以下のとおり、4名を顕彰した。

受賞者：久保田尚之、丹治星河、玉置雄大 (以上、北海道大学)、寺尾建哉 (札幌管区気象台)

中部支部では、若手会員または研究を本務としない会員で、「気象学の向上に資する研究を行っている」、「気象学の教育・普及活動が特に顕著」、「気象学を応用することにより社会に貢献している」に該当するものを顕彰している。2018年度が以下のとおり、1名を顕彰した。

受賞者：中西友恵 (三重大学)

九州支部では独自活動の一つとして、会員で、「気象学の向上に資する研究を行っている」、「気象学の教育・啓発活動を積極的に行っている」、「気象学を応用した活動で社会に貢献している」のいずれかの項目に該当する者を最大で3名選び顕彰している。2018年度は以下のとおり、1名を顕彰した。

受賞者：築地原匠 (九州大学)

## (3) 部外表彰等受賞候補者の推薦

関係団体等が主宰するいくつかの賞に対して、日本気象学会として候補者を推薦している。部外表彰等候補者推薦委員会が担当している。2018年度は日本学術振興会育志賞の候補者を推薦した。

## 2. 国際学術交流事業への支援・援助

### (1) 渡航費の支援

国際学術研究集会等に出席して論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の者に、申請によって渡航費の補助を行っている。資格は学会員に限定しないが、原則として修士論文提出程度の研究実績を要する者で、他から渡航費の援助を得られない者に限定している。

国際学術交流委員会が担当しており、2018年度は以下のとおり補助することとした。

- ・申請者：宮本 歩 (東京大学先端科学技術センター)
- ・会議名：21<sup>st</sup> Conference on Air-Sea Interaction
- ・場 所： アメリカ合衆国、オクラホマシティ
- ・期 間： 2018年6月11日～15日

### (2) 小倉特別講義

国内で開かれる国際学術研究集会の支援として、小倉義光・正子基金より招聘費等を補助し、国際学術交流委員会のもと組織した実行委員会が「小倉特別講義」を実施した。2018年度は、数値メソ気象学の第一人者である米国

ニューヨーク州立大学の Robert Fovell 教授を招聘し、以下のとおり秋季大会にあわせて開催した。

- ・開催日 : 10月29日
- ・開催場所 : 仙台国際センター
- ・講義題目 : How Ice Crystals Steer Typhoon

#### IV その他この目的を達成するために必要な事業の実施

##### 1. 会員の異動状況

2017年総会における公益社団法人日本気象学会細則の一部改正により、2018年12月1日から個人会員のA、B、C会員を廃止し、一般、学生、高年、終身とした。2018年3月31日の会員数については、改正後の会員種別で算出した。2018年度の会員の異動状況は下表のとおりである。近年の会員数の減少傾向は続いている。本年度は、会費の改定の影響もあり、一般会員の減少数がやや多かった。

会員種別		会員数		増減数
		本年度末 (2019年3月31日)	前年度末 (2018年3月31日)	
個人会員	一般	2,567	2,706	△139
	学生	332	304	28
	高年	255	253	2
	終身	20	—	20
	合計	3,174	3,263	△89
団体会員	団体A	82	84	△2
	団体B	58	60	△2
	団体C	47	47	0
	合計	187	191	△4
賛助会員		27	28	△1
名誉会員		15	16	△1
計		3,403	3,498	△95

##### 2. 役員を選任及び解任

2018年度総会で第40期理事20名を次の通り選任した。任期は、理事が2018年度総会の日から2020年度総会の日までの2年間である。監事の任期は4年間で、2018年度変更はなかった。

なお、理事及びそれぞれの主担当は以下のとおりである。

氏名	所属	主担当
岩崎 俊樹	東北大学大学院理学研究科教授	理事長（代表理事）
瀬上 哲秀	元気象研究所長	副理事長，企画調整，気象災害
青柳 曉典	気象庁地球環境・海洋部地球環境業務課 地球環境観測ネットワーク企画調整官	天気編集
氏家 将志	気象庁予報部数値予報課予報官	庶務担当
榎本 剛	京都大学防災研究所准教授	電子情報，人材育成・男女共同参画
小池 真	東京大学大学院理学系研究科教授	岸保・立平賞候補者推薦
佐藤 薫	東京大学大学院理学系研究科教授	学会賞候補者推薦
佐藤 正樹	東京大学大気海洋研究所教授	気象集誌編集，正野賞候補者推薦
塩谷 雅人	京大大学生存圏研究所教授	学術
新保 明彦	気象庁地球環境・海洋部気候情報課 異常気象情報センター予報官	会計担当
竹見 哲也	京都大学防災研究所准教授	SOLA編集，奨励賞候補者推薦
坪木 和久	名古屋大学宇宙地球環境研究所教授	気象研究コンソーシアム，松野賞候補者推薦
仲江川 敏之	気象研究所気候研究部室長	講演企画

中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター 副所長・教授	気象研究ノート編集, 部外表彰候補者推薦
早坂 忠裕	東北大学理事・副学長	堀内賞候補者推薦
平松 信昭	一般財団法人日本気象協会防災ソリューション事業部担当部長	教育と普及
廣岡 俊彦	九州大学大学院理学研究院教授	名誉会員推薦, 地球環境問題
堀之内 武	北海道大学地球環境科学研究院准教授	山本賞候補者推薦
余田 成男	京都大学大学院理学研究科教授	藤原賞候補者推薦
渡部 雅浩	東京大学大気海洋研究所教授	国際学術交流

また、監事は、以下のとおりである。

氏名	所属
鈴木 靖	一般財団法人日本気象協会技師長
高谷 康太郎	京都産業大学理学部准教授

### 3. 声明・提言・要請・要望の発出

気象学会の活動に密接不可分な活動等に関連する事案及び依頼機関等のこれまでの活動等並びに今後の活動等において気象学・大気科学との密接な関連性が認められる事案に対して、気象学会の目的を遂行するために声明・提言・要請・要望を發表することとしている。

2018年度はこれらの發表はなかった。

### 4. 会議等の開催

#### (1) 社員総会

全ての個人会員で構成される社員総会は学会の最高意思決定機関であり、年1回春季大会の期間に開催している。2018年度は、2018年5月17日につくば国際会議場で開催した。

総会においては以下の議案を審議し、議案1、2、3、4、6、7については、総会参加票による参加者を加えて賛成多数で承認した。議案5については、総社員の議決権の3分の2以上の賛成を得られなかったため、承認されなかった。

- ① 審議事項 議案1. 2017年度事業報告  
議案2. 2017年度決算報告  
議案3. 2017年度監査報告  
議案4. 公益社団法人日本気象学会細則の一部改正について  
議案5. 公益社団法人日本気象学会定款の一部改正について  
議案6. 第39期名誉会員の推薦について  
議案7. 第40期役員を選任について

- ② 報告事項 報告1. 2018年度事業計画  
報告2. 2018年度収支予算

上記議案5の非承認を受け、臨時総会を2018年11月19日に気象庁講堂で開催した。臨時総会において議案5と同じ以下の議案を審議し、臨時総会参加票による参加者を加えて総社員の議決権の3分の2以上の賛成で承認した。

- ① 審議事項 議案 公益社団法人日本気象学会定款の一部改正について

#### (2) 理事会

第39期理事会は、毎月1回、理事長が招集し開催した。第40期理事会からは原則として2か月に1回理事会を開催し、必要に応じみなし決議（定款第36条に基づき、全理事の書面又は電磁的方法による同意が得られた場合）による理事会を開催した。理事20名、監事2名によって理事会を構成しているが、理事長は必要に応じて支部長等の出席を求めて開催することが出来る。2018年度の理事会議題（協議事項）は以下の表のとおりである（定常的な報告事項は省略）。

なお、理事会開催場所に出席できない理事もWeb会議システムを通じて出席できることが可能であることから、毎回数名の理事がこの方法で出席している。

開催年月日	協議事項	協議の結果
第 39 期第 22 回理事会 (2018 年 4 月 13 日)	1. 第 39 期第 21 回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 総会議案及び参加票について	〃
	4. 会費改定へのご意見とその対応について	〃
	5. 寄附金等取扱規程について	〃
第 39 期第 23 回理事会 (2018 年 5 月 16 日)	1. 第 39 期第 22 回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 2018 年度総会について	〃
	4. 大会担当機関について	〃
第 40 期第 1 回理事会 (2018 年 5 月 18 日)	1. 第 40 期理事長の選任 (岩崎俊樹)	無記名投票で決定
	2. 第 40 期副理事長の選任 (瀬上哲秀)	全会一致で承認
	3. 業務執行理事の選任 (瀬上哲秀、氏家将志、新保明彦)	〃
	4. 委員長の選任	〃
第 40 期第 2 回理事会 (2018 年 6 月 13 日)	1. 第 39 期第 23 回理事会議事録の確認	みなし決議で承認
	2. 第 40 期第 1 回理事会議事録の確認	〃
	3. 2018 年度総会議事録の確認	〃
	4. 名古屋大学宇宙地球環境研究所の国際共同利用・共同研究拠点認定に関わるサポートレターの依頼について	〃
第 40 期第 3 回理事会 (2018 年 7 月 18 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 評議員会の名称変更について	〃
	3. 2018 年度臨時総会について	〃
第 40 期第 4 回理事会 (2018 年 9 月 7 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第 40 期第 3 回理事会議事録の確認	〃
第 40 期第 5 回理事会 (2018 年 11 月 19 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第 40 期第 4 回理事会議事録の確認	〃
	3. 掲載料免除規程の改正について	〃
	4. 「奨励賞」の「小倉奨励賞」への名称変更について	〃
	5. 年会費免除申請について	〃
第 40 期第 6 回理事会 (2019 年 1 月 31 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第 40 期第 5 回理事会議事録の確認	〃
	3. 2018 年度臨時総会議事録の確認	〃
	4. 松野賞受賞者選考規定の一部改正について	〃
第 40 期第 7 回理事会 (2019 年 2 月 26 日)	1. 第 40 期第 6 回理事会議事録の確認	みなし決議で承認
	2. 2019 年度事業計画案及び収支予算案について	〃
	3. 学術大型研究計画提案「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」に対する気象学会としての承認のお願い	〃
第 40 期第 8 回理事会 (2019 年 3 月 18 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認

### (3) 支部長会議

公益社団法人移行に伴い、支部からの理事の選任が廃止されたことから、各支部との連携強化を図るため新たに支部長会議を設置した。新たに設置した支部長会議は、理事長・理事・監事・支部長により構成され、原則として年 1 回、理事長が招集して開催することとしている。

第 40 期第 1 回支部長会議

日付：2019年1月31日  
議題：2018年度支部活動報告  
2019年度支部活動計画  
秋季大会の取り組み状況  
学会の収支改善に向けたさらなる取組

#### (4) 評議員会

評議員会は、評議員・理事長・理事・監事・支部長によって構成し、理事会の諮問事項を審議する。評議員は諮問事項に適任な有識者に理事長が委嘱する。任期は2年である。

地球温暖化の進展に伴い、異常気象や局地的大雨などの極端現象の増加が懸念されている。こうした課題への対処として、地球環境の監視、大雨の監視等に不可欠な地球観測システムの強化およびその利用技術の高度化が重要な課題となっている。このような状況に鑑み、第39期では、「地球観測の強化に向けて日本気象学会は何をなすべきか」を諮問事項とし、評議員には、大学、研究機関、気象庁における各分野の有識者に就任を要請し、広範なご意見と議論を基に、学会の将来構想に資することとした。2018年度は第39期第2回評議員会を4月27日に実施した。

公益社団法人日本気象学会細則を一部改正により、評議員会の名称を有識者会議に変更し、必要な諮問事項が生じた都度で開催することとした。

#### (5) 各種委員会

日本気象学会では23の委員会を設置して、公益目的事業1～3を分担して実施している。なお、上述した3つの事業報告の中で言及しなかった事業については、設置している各委員会活動の一環として実施している。

以下に2018年度に、各委員会で実施した事業についてその概要を記載する。

##### ・ 電子情報委員会

学会サーバやメーリングリストの管理及びウェブサイト掲載情報の更新・機能充実、障害対応に加えて、予稿集の電子版配布の試行やウェブサイトのセキュリティ強化を実施し、加えて情報基盤のクラウド化を進めた。

以上